〈講演〉

100年前に大学記念館をつくった祖父たち

木全敬蔵

【司会】 ありがとうございました。殿岡さんに「娘から見た学長本間喜一と愛知大学」ということでご講演いただきました。本来ならば質問をお受けしたいところですが、ちょっと時間が迫っておりますので、このあとの交歓会でまた個人的にお聞きになっていただきたいと思います。本間先生の武士の情け、あるいは人を喜ばすことが上手だったという、本間先生のお人柄が充分ご理解いただけたと思いますが、交歓会でさらにご理解を深めていただければ幸いです。どうもありがとうございました。続きまして「100年前に愛知大学記念館を作ったお祖父さん」ということで、木全先生からご講演をいただきたいと思います。木全先生は先ほどセンター長からご紹介がありましたように豊橋東高等学校を卒業後、東京教育大学を卒業され、奈良国立文化財研究所に勤めておられました。また愛知大学の地理学の先生もされていたと聞いております。木全先生よろしくお願いいたします。

【木全】 ただいま紹介いただきました木全です。先ほどの本間学長のご立派なお話を伺って反省することしきりです。私が大学を受ける頃、ここの大学の或るサークルから愛大に来ないかと誘われました。当時はもう東京のほうに目が向いていますから、豊橋にいるのはごめんだというのでお断りしたんですが、今考えてみればあんな立派な先生のもとで勉学できたらよかったかなと反省しております。

1982年～1995年の13年間毎年夏と冬に集中講義のためここへお邪魔していました。そのとき藤田先生との雑談の中で「ここの本館は祖父兵藤耕次郎が建てたと聞いている」というような話をしたことがあります。それは私が中学生のころ母のお供をして、草間の母の叔母の家に行く途中、大学の前を歩きながら、母が本館を指差して「これはおじいさんが建てたんだよ」と言ったことを覚えていたからです。藤田先生から「本館を建てたという貴方のおじいさんの話をしていただけないか」と電話を頂いたときに「承知しました」と気軽に引き受けたものの、考えてみれば私の祖父についての知識は前述の母の一言が唯一だったのです。これは大変なことを引き受けたものと反省をして、母の話は私の思い込みではないことを確認するために兄に「愛大の本館はおじいさんが建てたという話を母から聞いたことがあるか」と尋ねると「母からも、伯父からも聞いた」という返事で、これは我が家に伝わる祖父についての情報であることが確認されました。さらに従兄、又従兄に頼み、祖父と伯父の建築に関わる資料を送ってもらい、ようやくこの場に立つことができました。

兄が伯父と言うのは、耕次郎の長男弥之助のことです。耕次郎の家系を簡単に記しておきました。耕次郎は六兵衛の四男となっていますが、三人の兄については知られていません。妹の一人は草間

兵藤耕次郎の家系

兵藤六兵衛
- 男
- 男
- 男
- 耕次郎（文久3―大正6・1863―1917）
  - 女（水口）―○―源彦
  - 女（古港）
  - 弥之助（明治28―昭和44・1895―1969）―申一
  - 女
  - 女
  - 男
  - 男
  - 男
  - 女
  - 女（明治44―昭和53・1911―1978）

兵藤耕次郎

兵藤ちは

進雄神社棟札

明治四十二年（一九〇九年）

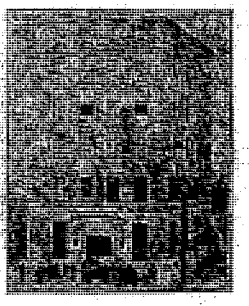
宝祚無窮国威宣揚風雨須時
五穀豊登氏子繁栄萬難消除
奉改造村社進雄神社本殿渡各壱宇
神武天皇紀元二千五百六十九年
明治四十二年四月十九日　上棟祭遷宮

七根郷社御厨神社々司兼當社々掌
斉主戸田武太郎藤原忠武
斉官　鈴木熊蔵賀前
同　中村源嘉
大工　豊橋市　兵藤耕次郎
氏子総代　鈴木彦六
同　兵藤曽與吉
同　水口源右工門
同　篠原六三郎
字総代兼造係　大和豊作
同　河合儀之助
造営係　宮脇国蔵
同　佐久間辰造

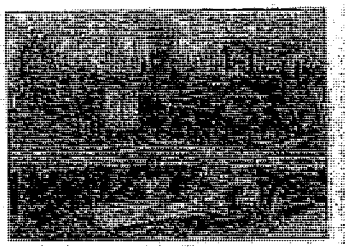
『南梁町物語』より

兵藤工務店が建設した建物

松山町の少林寺
新城小学校
小坂井の製糸工場
映画館（豊橋市内）
大野銀行豊橋支店
額田銀行ビル
穴守稲荷（東京都大田区）



額ビル落成時



『市電のある風景』より

額ビル落成式の一部
矢印が弥之助

の叔母で、もう一人は今この会場に出席されている『南栄町物語』の著者、水口源彦さんのおばあさんです。

耕次郎のつれあい、はるは越前永平寺の近くで生まれ育ったそうです。豊橋生まれの耕次郎と越前生まれのはるがどうして結ばれたかは謎です。母や伯母の話によると、耕次郎が東京の大きな屋敷の普請に手伝いに行ったとき、屋敷に居た働き者のお手伝いさんが気に入って、豊橋へ連れ帰ったということです。祖母は恋愛結婚したのに娘は、自分が見つけた婿を無理強いして、嫌がると豊川に飛び込んで死んでやると脅したと、母と伯母はぼやいていました。

耕次郎は文久3年（1863）に生まれ、大正6年（1917）54歳で亡くなりました。本館建築の年明治41年は45歳でした。耕次郎は宮大工だったと伝えられています。その唯一の記録が進雄神社の棟札に「大工 豊橋市 兵藤耕次郎」の名があることです。本館が建築された明治41年は師団司令部だけでなく歩兵連隊、砲兵連隊、騎兵連隊、陸軍病院、兵器廠等、第15師団を構成する部隊、機関等の建設が同時に進められたので、豊橋市の歴史上最大の建築ブームだったと思います。そんな時ですから宮大工の耕次郎も軍隊施設の建築に駆りだされたものと推察します。

弥之助は、明治28年（1895）中世古に生まれ、小学校卒業後父親耕次郎に弟子入りしました。当時の小学校は尋常科4年、高等科2年制ですから12歳でした。3歳年上の花田工務店の創業者花田勝蔵さんも同じ年（本館建築の1年前の明治40年）に耕次郎に弟子入りしました。二人とも本館建築の現場を入門早々に経験することになったと推量しています。

水口さんから頂いた資料（豊橋技術科学大学小野木重勝教授の日本建築学会での報告）によると、基礎部分のレンガ積はイギリス積、外壁はドイツ下見板張り、玄関入口はイタリアのトスカナ風等西洋風の意匠がふんだんに取り入れられているそうです。豊橋最初の西洋風の意匠を取り入れた規模の大きい近代建築に関わったことは、弥之助の「初めてと西洋風（ハイカラ）」にこだわる性格形成に大きく影響したであろうと思います。

耕次郎が54歳で亡くなり、22歳の弥之助が兵藤組を継ぎました。弥之助は先ず屋号兵藤組を現代風に兵藤工務店に名称変更しました。「建築業で工務店という呼称は竹中工務店より、俺の方が早い、日本で最初だ」と自慢していました。その兵藤工務店は余程順調だったようで、30歳前に13歳年下の妹と16歳年下の妹を豊橋高女へ入れています。ただ可愛い妹に学問をつけさせようと女学校へ行かせたのではなく、豊橋高女の制服が当時としては大変斬新なデザインでしたから、弥之助のハイカラ好みが、妹に豊橋高女の制服を着させたくなったのではないかという気がします。

「ある日、学校帰りに車が近寄って来て、乗れという運転手を見ると兄だったので驚いたが、友達に自慢したくもあったので、友達を誘って乗り込んだら、直ぐエンコして恥かいちゃった」と母が語ったことがあります。車は施主さんからもらったフォードだったそうで、豊橋で最初のオーナードライバーだったことも弥之助の自慢の一つです。

資料にある大野銀行豊橋支店が描かれた図は、私の高校の同級生伊奈彦定さんの画集『市電のある風景』からコピーしたものです。最初のページには後姿ですが、豊橋高女生が描かれています。この画集を弥之助のつれあい（伯母）に見せたら、これは弥之助が建てたものだと懐かしそうに言いました。洋風好みの弥之助にふさわしいデザインだと思います。

写真は額田銀行ビル、通称額ビルの落成時に撮影されたものです。地下1階、地上5階、エレベーター付の豊橋最初の鉄筋コンクリートの高層ビルでした。弥之助の息子申一の父親評は「無鉄砲でオッチョコチョイ」でした。初めてが好き、洋風が好き、さらに無鉄砲とオッッチョコチョイが一

気に噴出し、豊橋で俺がやらなきゃ誰がやるとばかりに、大企業の清水組に競り勝って落札したが、知識・技術・経験いずれも不足の仕事で、結局大きな負債を作って豊橋の業界からの撤退を余儀なくさせられました（昭和３年）。

申一は弥之助の跡を継がず、物理学者になってしまい、一人っ子でしたから兵藤組、兵藤工務店は耕次郎と弥之助の二代で終わってしまいました。しかし数年を経たないで、公会堂をはじめとし新川小学校など大型の鉄筋コンクリートの建物完成が見られることは、兵藤工務店の額ビル挑戦が豊橋の近代建築の発展に少しは貢献したのではないかと思います。そして豊橋の建築界の近代化の原点はこの本館であったと言えると思っています。

15分という約束でまとめてきましたので、これで耕次郎・弥之助、２代の棟梁の話を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

【司会】 どうも木全さんありがとうございました。兵藤耕次郎さんの宮大工時代のことを踏まえまして、今の大学記念館は当時の言葉で言えばハイカラということで、イギリス風・ドイツ風・イタリア風のモダンな建物だったという、貴重なお話をありがとうございました。本日お話しいただいた殿岡さんと木全さんに、改めて拍手をさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。それでは講演会はこれで終了させていただきまして、これから１階で交歓会に入りたいと思います。交歓会の席でまた今の殿岡さんのお話、あるいは木全さんのお話等を踏まえながら楽しく過ごしていきたいと思います。それでは１階のほうに移動していただきます。よろしくお願いいたします。